

式 辞

本日ここに、多くの町民の皆様、ご来賓の皆様、関トンミー大使様、多数の皆様のご参加のもと、「SPACE TOWN 南種子 令和六年度ふるさと祭」が盛大に開催できますことを大変うれしく存じます。

郷土を愛し、町民総和をもって本町の振興発展に期するという趣旨で開催されて参りましたこのふるさと祭が、町民の皆様を始め多くの方々並びに、関係機関の皆様方のご支援・ご協力をいただきながら、充実発展しておりますことは、誠に喜ばしい限りでございます。

そして、これまで多くの先人達のたゆまぬご努力の中で、輝かしい歴史と文化を継承しながら、町民各位の懸命なるご努力と関係各位のご尽力により、このような素晴らしい今日の南種子町を築き上げて参りましたことに、心から感謝を申し上げたいと存じます。

昨今の我が国の情勢を見ますと、少子高齢化・人口減少などによる地域コミュニティの衰退や各分野における担い手不足、ウクライナ危機に加え中東における紛争問題による影響やコロナショックがもたらした個人消費の構造変化等による物価高騰対応、その他政治的不安定化など多くの課題が認識されております。

本町においても、このような情勢を踏まえながら、時代の変遷に対応した町政運営を行うため、将来を見据えた効果的・効率的な産業振興や地域活性化、そして「まちの活力」を取り戻し、町民の皆様が安全に安心して暮らせる持続可能なまちづくりに取り組んでいるところであります。

さて、九月十二日は、毛利衛宇宙飛行士が日本人として初めてスペースシャトルで宇宙に飛び立った日であることを記念して「宇宙の日」に制定されています。

この「宇宙の日」にあわせて、南種子町は「SPACE TOWN 南種子」宣言を行い、これまで以上に宇宙産業と地域の発展を推進するとともに、我が町の豊かな自然と文化を活かしながら、南種子町を宇宙に向けたイノベーションの発信地としてさらに進化させていきたいと考えております。

この宣言を通じて、宇宙に触れ、学び、共創しながら、次世代を担う子どもたちに夢と希望を与え、地元産業の活性化や観光の振興にも積極的に取り組んでまいります。

それでは、本町の現状の報告と若干の行政施策について触れたいと存じます。

まず、町民生活を守るうえで本町の最重要課題であります病院問題についての現状を報告しておきたいと思えます。

公立種子島病院であります。十月二十七日に徳永院長がご逝去されました。哀悼の誠を捧げ、心よりお悔やみ申しあげます。私は町長就任後の五年六か月の間、医師確保対策について、鹿児島県及び鹿児島大学病院、県医師会等に幾度となく継続して要望して参って参りましたが、これまでの五年間余り一向に進展することもなく、八十数名の地域枠医師は他の地域に配置され、本院へは未だ地域枠の医師配置の支援や今回の緊急事態においても、一切の医師配置支援などゼロの状況が続いているところであります。

このような状況の中、公立種子島病院の現状とこれまでの経緯について申し述べますが、

九月中旬に院長から体調不良の報告を受けておりました。最も懸念していた事態が起こった訳でありまして、私としては緊急事態に対処すべく、早速、九月下旬に塩田知事、その後、森山代議士に直接現状等を報告したところであります。

しかしながら鹿児島県内においてこの緊急事態を打開するような支援策はなく、それでも住民の命を守るためには早急に診療体制を整えることが急務であることから並行して九月下旬に即上京、そして東京において医療再生関係に携わる方々と面談、御相談することができました。まずは非常勤体制の勤務医師で臨時的ではありますが、定期的な勤務をお願いし、対応いただくこととなりました。なお、今後においては、十一月に常勤医師二名、さらに年明け二月に一名の常勤医師が着任の予定で現在交渉準備中であります。

また、こうした中、先般の新聞記事をご覧になり、複数の民間医療機関よりご心配いただき、協力・支援の話もあったところで、さっそく今後を見すえ面談を行っております。管理者である私だけで解決できるものでもなく、残っていただいている医師二名と事務長をはじめ病院スタッフ一同、眠れない日々を送りながらも、両町民の皆様の安心できる病院確立のため、大変な心配をしながらも、懸命に取り組んでいるところであります。どうか、島内・県内全ての皆様にこの離島・へき地医療の大変な状況、そして本当に重要であるということをご理解いただきたいと存じます。

離島・へき地医療は、本人も、その家族にも大変な問題であり、助かる命も助けられない大きな問題であります。

今後、離島・へき地医療を一番理解し重要と考えている組織・団体との関係構築を目指して参ります。

しばらくご心配をおかけいたしますが、皆様が安心して暮らせるよう精一杯努力して参りますので、ご理解をお願い申し上げます。

次に、農林水産業を取り巻く情勢は、肥料や飼料、燃油価格の高止まりにより、依然として、厳しい状況が続いております。

このような中、本町においては、昨年に引き続き、再編交付金を活用しまして、肥料・飼料の価格高騰対策事業を実施し、農家の皆様の負担軽減を図っているところであります。今後とも、農業経営の安定化を図るため、生産基盤整備を計画的に進め、水稻やサトウキビ、甘しょ、園芸作物、畜産などの振興に力を入れ、農業所得の向上と担い手農家の育成に努めて参ります。

林業につきましては、特用林産物のシキミ・ヒサカキの生産拡大の推進、水産業については、本町の立地条件を生かした環境整備を進め「つくり育てる漁業」を推進しながら、水産振興、漁業者の所得向上に努めております。

福祉政策の推進においては、本年八月より子ども医療費助成制度の条例改正を行い、南種子町の十八歳以下のすべての子どもの医療費について、町内医療機関等での現物給付（窓口負担の無償化）を行っております。

子育て支援については、昨年設置した、子育て世代包括支援センターにおいて、妊娠期から子育て期に切れ目のない支援体制の構築を図っております。また、高齢者支援については、

地域包括支援センターにおいて、地域包括ケアシステムを推進して、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援体制づくりの充実を図っております。

宇宙開発については、今年二月、H3ロケットの打上げが成功し、私たちの町だけではなく、日本全体の宇宙産業にとって大きな希望と期待を抱かせる出来事となりました。この成功は、長年にわたりご尽力されてきました関係者の皆様が一丸となって挑戦し続けた賜物であり、日本の宇宙技術の新たなステージへの進化となりました。

今後も地元として、ロケット打上げが順調に進みますように、引き続き、必要な支援を実施してまいります。

また、種子島ロケットコンテストや宇宙芸術祭、宇宙学校プロジェクトなど、宇宙の町にふさわしいイベントを実施して参りたいと存じます。

観光対策については、第四十六回ロケット祭の開催にあたり、多くの個人・企業の皆様からご支援をいただき、鹿児島県最大となる一万五千発の大花火を実現することができ、町内外からたくさんの方々が本町を訪れました。

また、種子島宇宙センターや鉄砲伝来の地門倉岬など多くの観光資源を有しておりますので、観光地の景観整備に努めながら、より多くの観光客が種子島へご来島いただけますように観光対策を進めて参ります。

地域の活性化対策については、南種子町で育った子供たちの修学支援や子育て世代の負担軽減、地元への就職を応援するため、地元企業と連携して新たな奨学金制度「宇宙の町奨学プログラム」を構築したところであります。

交流対策については、地域の国際交流の推進と地域発展を目指し、ネパール国のミクラジャン自治体との姉妹都市提携に向けた取り組みを進めております。

この姉妹都市提携は、両自治体が地域の特色や課題を共有し、互いに協力することで、文化的小よび経済的な発展を目指すというもので、交流事業を通して正式な姉妹都市提携を目指し、取り組んでまいります。

また、地域公共交通については、これまで定時定路線によるコミュニティバスの運行を行ってまいりましたが、地域公共交通の充実・利便性の向上を図るため、運行形態の変更（デマンド方式）に関する予算について、十一月五日開催の臨時会において、審議していただくこととしております。

教育については、学校や地域の活性化を目指し、本年度も全国各地から宇宙留学生第二十九期生五十五人を受け入れ、現在、充実した留學生活を送っていただいております。子供たちや地域の方々が多様な価値観を認め合い、学び合うことで、これからの社会をたくましく生きる子供たちの育成、地域に貢献できる学校づくりに努めているところであります。

引き続き、各産業の振興並びに福祉の充実、教育文化向上のための諸施策を積極的に推進して参りたいと存じます。

また、本日のふるさと祭において、町民表彰並びに各種表彰を受けられます皆様におかれましては、平素からのご努力が高く評価された訳でありまして、そのご功績を称えと共に、今後益々のご活躍を期待する次第でございます。

そして、本日は、このふるさと祭の行事のために、多くの皆様が各種イベントに出演・出展され、多大なご協力をいただいております。

ふるさと祭の運営に当たっておられます皆様方のご尽力に対し、主催者を代表して心から感謝を申し上げます。

なお、ふるさと祭の各行事は、お手元に配布してあります実施要領に基づきそれぞれの日程によって行われます。本日は、郷土芸能をはじめ、昨年に引き続き肝付町特産品などの無料配布も行われるようであります。最後までごゆっくりとご覧いただき、楽しんでいただければ幸いに存じます。

結びに、わが郷土、南種子町のさらなる発展を祈念して式辞といたします。

令和六年十一月三日

SPACE TOWN 南種子
南種子町ふるさと祭実行委員会会長
南種子町長 小園 裕康